「第40回全国きき酒選手権大会-オンライン名人戦-」レポート

初の“オンライン“による「きき酒選手権大会」を実施
優勝は刀禰 俊哉さん（東京都）

優勝者の刀禰さん（左）と七田需要開発委員長（右）

日本酒造組合中央会

全国各地のきき酒名人が日本一の座をかけて自慢の腕を競い合う、「第40回 全国きき酒選手権大会－オンライン名人戦－」が2年ぶりに10月22日（金）に開催されました。
「全国きき酒選手権大会」は、日本酒文化の普及・振興を目的に1981年よりスタートし、今年で40回目を迎える歴史ある大会です。
今年は新型コロナウィルス感染症対策として、きき酒競技と日本酒実力テストを初のオンラインで実施。全国から選抜された日本酒の深い知識を持つ97名が参加し熱い戦いを繰り広げました。

27道府県の代表選手50名と一般申込による47名の計97名がオンライン名人の称号を目指して競い合う。

27道府県の代表選手50名と一般申込の約130名の中から抽選で選出された一般募集選手47名の計97名が競い合いました。
開会に当たって挨拶した七田需要開発委員長は「第40回という節目の大会が昨年は新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止となりました。今年は何としても開催したいとの思いで、結果、オンラインでの実施となりました。」と開催に関する経緯や思いを説明しました。

■2軸から判定される審査の基準
その後、宇都宮競技委員長より、初のオンラインきき酒選手権のルール説明が行われました。
審査の基準は、「日本酒実力テスト(筆記試験)」と「マッチング法によるきき酒競技」の2種類。
前者では、日本酒に対する理解度を図るため日本酒好きでも即答が難しい30問が出題されました。
また、後者では多種多様な表情を持つ日本酒を見極め、7種類の酒質の異なる日本酒のセットを色や香り、味わいからきき分け、好みの順位をつけます。1回目と2回目でつけた順位がどれだけ一致するかを競うものです。

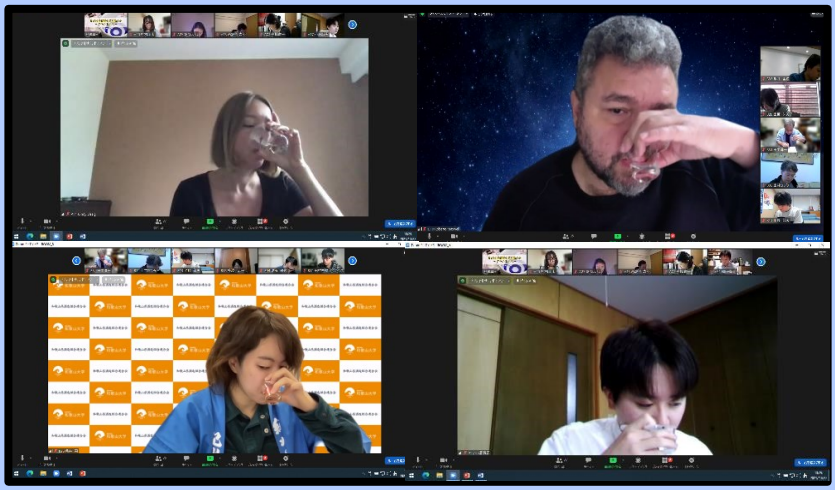
日本酒実力テストでは高難度30問を制限時間20分で回答 3名が全問正解の快挙！

オンライン日本酒実力テストは、事前に参加者に送付した「第40回全国きき酒選手権大会日本酒テキスト」及び小冊子「日本酒と日本文化」&「二十歳からの日本酒BOOK」から30問が出題されました。
制限時間20分でテキストや冊子を見ながらオンラインの回答ページに記入していきました。難問あり、ひっかけ問題ありの高難度の問題でしたが、3名が全問正解となりました。

全員の回答状況を見守っている運営事務局

きき酒競技では前半・後半それぞれ7分間で好みの順位付けを行いオンラインで回答。高難度にも関わらず19名が満点！

多種多様な表情を持つ日本酒を見極め、精緻な分析力が欠かせないマッチング法によるきき酒競技は、7種類の酒質の異なる日本酒のセットを色や香り、味わいからきき分け、好みの順位をつけます。数分後に2回目のセットでもう一度きき酒を行い、1回目と2回目でつけた順位がどれだけ一致するか、整合性が取れているほど、順位が高くなります。
前半7分間、後半7分間のきき酒の後に、オンラインの回答ページに制限時間内に入力していきます。
今回は難問にもかかわらず19名が満点となり、参加者のレベルの高さがうかがえました。



7種類の日本酒を味わい、順位をつけていく参加者のみなさん。
大学生、女性、外国人の方など様々な方が全国から参加されました。

正解発表・解説（宇都宮競技委員長）

日本酒実力テスト(筆記試験)では満点が3人いらっしゃいました。簡単な問題ではないと思っておりますし、間違いやすい問も多い中、3人も満点がいることは素晴らしいです。
きき酒競技については、２回行った順位の差が少ない方を上位としましたが、まったく間違わなかった方が19人もいました。
7つのお酒を時間をおいて当てるというのは非常に難しいと思いますが、日ごろの鍛錬とお酒を楽しんでいただいている賜物。非常に優秀な方に参加いただいていると思いました。

優勝は、刀禰 俊哉さん（東京都）
準優勝は、伊藤 真幸さん（静岡県）
3位は、樟 香里さん（京都府）

オンライン名人の称号は･･･
表彰式もオンラインで実施
今回の優勝者は、一般申し込みから応募いただいた東京都の刀禰 俊哉（とね としや）さん。優勝が決まった刀禰さんからは、「本当にびっくりをしております。これからも現場で沢山日本酒を飲みながら、しっかりと応援していきたいと思います！これまで、日本酒で乾杯させて頂いた全ての方に感謝です。」とのコメントを頂きました。

優勝の刀禰 俊哉さん

準優勝の伊藤 真幸さん

3位の樟 香里さん

閉会のコメント（七田需要開発委員長）

「きき酒選手権大会に長く携わっていますが、満点が19名もいるのは過去に類がないハイレベルな戦いだと思いました。従来は会場で行いますが、おひとりおひとりがご自宅など落ち着いた環境できき酒をしやすかったことも要因の1つかもしれません。優勝者の方はよくお酒の席で拝見することがあったので現場で鍛えられた飲む力を発揮されたのかなと感じました。やはり実際に飲んでナンボです！お酒を消費してきき酒能力を高めてください！」

参加者からの声（抜粋）

リアル開催ができない中で、オンライン開催を実現していただいたことに感謝いたします。オンラインでも十分できることがわかりましたが、早く新型コロナが終息してリアル開催できる日を楽しみにしています。

初めてのオンライン開催にもかかわらず、良く環境が整えられており、満足です。都道府県大会予選含め、日本酒の知識を習得しながら、日本酒の持つ幅広い味わいを知ることができました。また次回、挑戦させていただきます。

意外に入賞者に女性が多く、日本酒の深まりを感じました。巷では米離れ、日本酒離れが取りざたされていますが日本人たるもの日本酒を飲まなくてどうする！？と思います。関係者の皆さんの熱い思いも共有させてもらえて嬉しいです。わたしも日本文化のライターとして日本酒や日本伝統芸能、食文化を海外の人にもわかってもらうべく活動していきたいと思います。参加させていただきありがとうございました。これからもよろしくお願いします。コロナ禍を乗り越え、日本の繁栄を祈ります。弥栄！